

RMGT940ST-4

導入

A全・LED-UV機で納期短縮を加速



中庭社長

品質検査機能で、OKシートとの比較を基に、汚れ、ヒッキーなどを自動で検知し、不良紙をブルーインフォメーションデ

5年の設立。仕事の中心は商業印刷で、仲間仕事者が約8割を占める。後加工も断裁機、製本機、型抜・筋入・箔押機をそろえ、デリバリーにも対応、ワンストップサービスを表現している。また、特色や本機校正にも対応し、ユボや厚紙、紙割パッケージの印刷もできる。

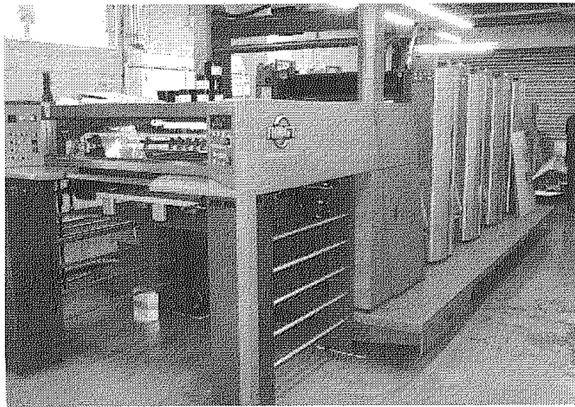
ナカニワ印刷(東京都江東区)

ナカニワ印刷(中庭藤夫社長、東京都江東区)は5月初旬、リョービMH1クラフティックテクノロジー(広川勝土社長、RMGT)のA全判LED-UV機「RMGT940ST-4+PQS-D (I+C)」を導入した。同機はナカニワ印刷にとって初の全判機、そしてLED-UV機となる。導入の狙いについて中庭社長に話を聞いた。

ナカニワ印刷は1955

5年の設立。仕事の中心は商業印刷で、仲間仕事者が約8割を占める。後加工も断裁機、製本機、型抜・筋入・箔押機をそろえ、デリバリーにも対応、ワンストップサービスを表現している。

印刷も手がけている。ロット数は1千から2千が多く、顧客は近くの中央区に多い。



導入したRMGT940ST-4+PQS-D (I+C)

都心の工場、生産性・効率化を追求

イスフレイに表示すると、自動でインキキーを制御し、不良紙のあった場所に紙テープを挟むことができる。「C」は濃度追従機能で、本機では50枚ごとにOKシートと印刷物の濃度を比較し、

自動でインキキーを制御することでも、印刷の品質を安定させる。また、油性からUVへの切り替わりとなったが、RMGTのサポートもあり、現状ではカラー面付数を増やして印刷枚

マネジメントに大きな問題はないという。インキのコストは高くなったが、印刷機を菊半からA全機へとサイズアップし、一枚当たりの面付数を増やして印刷枚

は国内メーカーで検討することになった。「2014年にリョービと三菱が一緒になり、RMGTとなってから、両社の技術が融合し、良い機械になったと感じて

は、「お客様に『待ってくださる』と言ったくない。工場が都心にあり、スペースの限られた同社が効率化と生産性を高めるには最適解と言えるだろう。

◆短納期対応、後加工もスムーズに
今回の導入にあたっては、公益財団法人東京都中小企業振興公社の「革新的事業展開設備投資支援事業」の補助金を活用した。提出書類の作成に、RMGTがコンサルタントを紹介するなど、サポートを受けた。

◆厳しい現状こそチャンス
「今までの菊半機では、買物や通しを刷るには効率やコストの点で課題があった」と中庭社長は語る。

もともと同社では、外国メーカーの菊半機を2台所有していたが、中庭社長は「外国メーカーといふこともあり、部品の取り寄せなど、メンテナンスにかかるコストが大まかだった」と語る。そこで、新台について

「今までの菊半機では、買物や通しを刷るには効率やコストの点で課題があった」と中庭社長は語る。今回の導入は、検査装置は、顧客からのニーズや品質の安定・UV乾燥装置よりも電力消費が少なく、オゾンが軽減のために装備したという。

今後の展望については、「新台は自信をもって導入した。今は設備投資やビジネスのチャンスだと思っ。将来的には、今ある色機もLEDを付けて入れ替えたい。その時にはRMGTさんからと考えている。当社は、仲間仕事が多いので、効率化と営業力、技術の強化に努め、会社をどんどん伸ばしていきたい」と力強く語った。